

せたがや町総連だより

第6号

発行 世田谷区町会総連合会
 世田谷区深沢1-37-20
 発行人 会長 三田隆真
 編集 情報誌編集委員会
 編集委員長 渡辺三郎

せたがや町総連だより

東京都町会連合会長
 文京区町会連合会長

相川 金次郎



まずもって、世田谷区町会総連合会が、ますます発展されておりますことを心からお喜び申し上げます。明るく住みよい社会は、行政だけでなく、地域で生活する人びとの協力によって創られていくものです。それには、地域の人たちの心のふれあいが大切であります。また、人として当然になさねばならないこと、つとめるべきこと、果たさなければならぬのは、いつの時代でも、どんな人にも

まもって、世田谷区町会総連合会が、ますます発展されておりますことを心からお喜び申し上げます。明るく住みよい社会は、行政だけでなく、地域で生活する人びとの協力によって創られていくものです。それには、地域の人たちの心のふれあいが大切であります。また、人として当然になさねばならないこと、つとめるべきこと、果たさなければならぬのは、いつの時代でも、どんな人にも

まもって、世田谷区町会総連合会が、ますます発展されておりますことを心からお喜び申し上げます。明るく住みよい社会は、行政だけでなく、地域で生活する人びとの協力によって創られていくものです。それには、地域の人たちの心のふれあいが大切であります。また、人として当然になさねばならないこと、つとめるべきこと、果たさなければならぬのは、いつの時代でも、どんな人にも

まもって、世田谷区町会総連合会が、ますます発展されておりますことを心からお喜び申し上げます。明るく住みよい社会は、行政だけでなく、地域で生活する人びとの協力によって創られていくものです。それには、地域の人たちの心のふれあいが大切であります。また、人として当然になさねばならないこと、つとめるべきこと、果たさなければならぬのは、いつの時代でも、どんな人にも

も当たり前のこととして受け入れられなければ、人びとの幸せも失われ、てしまうような気がします。お互いに繁栄する社会を生み出すために、自分の持つるもので精一杯、尽くしたいものです。こうしたボランティア精神の最たるもの、それが町会活動であるといつても言い過ぎではないと思います。

お互いに、自分ただひとりの立場にこだわらないで、二十年后、三十年先の社会に大きく目を開いて、人と人、団体と団体とが、それぞれ特色のある生活文化を生かしながらのびのびと活動できる。そうした秩序正しい自由のなかにこそ、人と地域との限らない発展が約束されるのではないのでしょうか。

社会の移り変わりの激しいこの時代に、わたくしは、わが胸のうちに一つの願いをもっています。それは、わたくしがこの時代に生きながらに、少しでも世の中がよくなったといわれるまで奉仕を続けることであつても、生きていく確証は自分でつかんでいきたいと思つています。

おわりに、世田谷区町会総連合会の弥栄を心からお祈り申し上げます。筆を擱かせていただきます。

世田谷地域

町名「太子堂」の由来と、区内小学校の源流 「太子堂郷学所」の紹介

太子堂二丁目大塚町会会長 太子堂連合町会会長

土橋 賀

一、町名「太子堂」の由来

日本全国に一つしかないと言われる太子堂の町名は、円泉寺境内の聖徳太子像を安置してある「太子堂」に由来している。

また、太子堂二丁目を大塚町会と称するのは、この地に古墳(大きな塚)があったことから「大塚」の名が生まれた。

二、太子堂連合町会の活動とミニコミ紙

この太子堂の町には七町会があり、連合して共通課題や事業に強力に取り組みながら「まちづくり」を進めている。

例えば、日常活動において防火、防災を初めゴミ問題・健康・防犯・美化清掃・学童育成・緑化対策等々、各町会独自のカラーを生かして成果を挙げて

いる。

さらに、ミニコミ紙「わが街太子堂・三軒茶屋」を発行し、街の移り変わり、各町会の歴史・事業・行事等を伝えるほか、記事の中に古くから住む人々の語りを織り込むなど、住民相互の和の拡大に貢献している。

三、二十七階建て「キャロットタワー」の完成

都市整備事業として、太子堂四丁目・三軒茶屋地区再開発第II工区キャロットタワーが完成。地下通路「三茶パティオ」・文化情報センター(劇場や生活工房)・多目的ホール等も開設された。これらの近代的な施設が、先導的・中心的に諸般の構造的な役割をもつて、地域や世田谷区に貢献されんことを心から切望している。

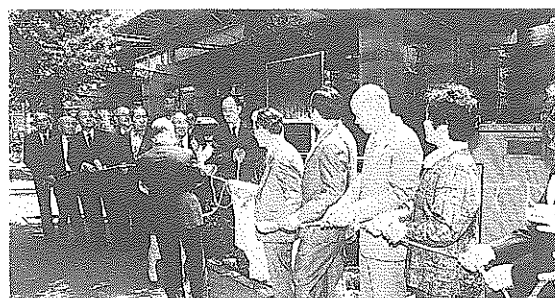
四、太子堂郷学所の紹介

そこで、わが街が世田谷区の小学校の源流「太子堂郷学所」(以下郷学所と略記)発祥の地であることを述べて、情報誌の原稿依頼に応えたい。この郷学所の跡地は太子堂二一七―三国道二四六号線沿いの橋和屋酒店(大塚共栄会商店街)前で、このたび区教育委員会が舗道の植え込みの一隅に跡地標示板を建てて顕彰されたことは、まことに有難く嬉しいことである。左にその碑文を掲げて紹介する次第である。

区内小学校の源流

「太子堂郷学所跡地」

太子堂郷学所は明治維新政府によって、学制が発布される以前に東京府品川県五番組の村立学校として開校した。設立提唱者は太子



区立小学校の源流 太子堂郷学所跡地標示板除幕式

堂村の斎藤寛齋(一八二一―一八六)である。

寛齋は尊攘派志士相楽総三と出会い、戊辰戦争に際して彼の率いる官軍先鋒隊、赤報隊に参加した。

しかし、赤報隊は新政府によって偽官軍の汚名を着せられ、相楽らは断罪された。失意のうちに帰郷した寛齋は、相楽の学校設立の意志を継いで、地元有力者にその必要を説いてまわった。

明治四年(一八七二)正月、郷学所は代田村円乗院において開校し、同年四月、校舎が大古道南側の円泉寺

所有地に新築されるまで、太子堂近辺の寺社を巡回教授した。同八月には、遠距離から通学する者の便宜を図り、荏原郡衾村(目黒区)と、上北沢にも分校を開設した。

明治五年八月に学制が発布されると、これに基づき七年一月には、太子堂郷学所を第二中学区四番小学荏原学校と改称して公立学校に編入した。

初代校長には、郷学所時代に饗をつとめた宮野茂平が着任し、後に太子堂郷学所創立からの歴史を「荏原学校沿革誌」に著した。

太子堂郷学所が荏原小学校となつてからも、旧校舎はそのまま使用されたが、明治十三年十月の大風によつて教場が半壊したため、明治十五年十一月、大古道をはさんだ向かい側の当地に校舎を新築した。

明治三十三年(一九〇〇)十二月、校舎は火災によつて焼失し、現在の若林小学校所在地に移転した。

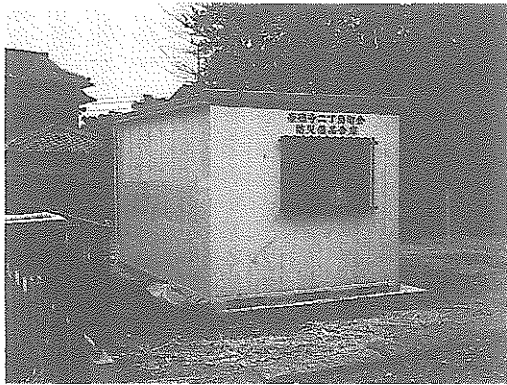
平成八年十月 世田谷区教育委員会

北沢地域

「我が町豪徳寺二丁目」

豪徳寺二丁目町会会長 小林澄子

豪徳寺二丁目町会は豪徳寺を囲む形で、一、一五〇世帯、昔から永く住まわれている方が多く、由緒ある豪徳寺、世田谷城陸公園と緑に恵まれ、佐藤美術館（故彫刻家佐藤助雄氏のアトリエ）が記念館として無料公開されており、静かな佇まいの町です。樹木が多いのでカラスと



寄贈された防災備品倉庫

地震に備え防災に力を入れており、幸いな事に、一町会員のご厚意で土

ゴミとの戦いです、一役員の提案でカラスよけネットを数年前より使用、カラスよけネットが珍しい時でしたので、日本テレビから撮影に参りましたり、NHKでも昨年カラスとゴミで撮影に参りまして、一月三十日朝の番組七時三十分放映されました。テレビ局が参りますと、カラスが樹から

地を提供して頂き防災備品倉庫も建てて下さいました。町会員一同感激致しました。本年は女性だけでも建てられる、新しいアルミ製のテントを購入、三月三十日に豪徳寺二丁目だけの防災訓練も実施、七十名からの参加者がありました。古紙類、アルミ缶の回収はもとより、牛乳パックはダウン症児の為に日本ダウン症協会へ寄付をさせて頂いており、城山小学校にもお願い致しまして、牛乳パック、アルミ缶の置場を提供して頂き、可愛らしい絵を描いた箱に登校する児童が、牛乳パック、アルミ缶を持って来て下さいます。子供の頃より障害者に対する暖かい心が芽生えてくれ

たらと思っております。ゴミゼロデー、班長会議、

子供まつり、敬老会、バス旅行、防災訓練、新年会と行事を行いつつも「町会とは」と、考えさせられる事もございますが、活動を進め町会員の絆を固め、明るい町づくりに微力ながら努力をと思っております。国際交流の一つとして、

町会の有志がイギリスのリッチモンド市バーンズを訪問、ホームステイを体験し、大歓迎を受け帰国しました。バーンズの町では町会長が二年交替とか、外国の町会自治会についてくわしい情報を知りたいと思う近頃でございます。

代沢二丁目北町会の話

代沢二丁目北町会会長 鈴木郁之助

月日の経つのは早いもので、就任して桃栗三年と諺に云う早や八年になり、代沢出張所管内町会長の中で、漸く中軸近くになりました。当地区には古参の方は当意即妙の術術のお上手な方が居られ、和やかに役員会を運ばれており、又当町会も二十年以上の経験者が多く、和気藹々の中に毎月の議事が進んで行きます。

でなく、他出張所管内の町会から踏切内迄置かれて居ると話があったのですが、今はただ「困りますね」と答えるだけです。

当町会の持越し問題は、駅近傍の放置自転車で、年一回の放置自転車キャンペーン行事でどうなるもの

五、六年前出張所長の発案で、駅から二百メートルの処に、築山のある広い庭のお家が建て替わるので、自転車置場を設けて預ければ、固定資産税免除になる旨新持主の方へ話しましたら「今度は地所一杯に建てる」との事で駄目。後は小学校の敷地に、児童の立ち入らぬ所があり、在校生漸

減の時でもあり、此処を堺で囲み駐輪場にする他ないと考えています。

今一つは名簿の問題。名簿を作る業者から時々話しあり、居住者の中でも欲しいと云う人もあり、近くの町会で作ったので、役員会で図りましたら、ずっと以前に話しあつた時は、広告集まらず取止めたとの事。昨夏とに角回覧を回しましたら二百人足らずしか集まりませんでした。業者はもっと人数が欲しいと云われました。当方の腰きまらぬせいもあり計画してから数年しても捗らず、区から言つて来た仕事以外は、しない方が良くと云う教訓を得た様です。

小生家改築の折、家内年来の病気で、関東大震災が怖いと片道四時間の田舎へ引つ込み、毎週二回から五回は上京し、世田谷居住六十年の御恩返しと町会の仕事をさせて戴いて居り、昨年七十七の祝品を貰い、老骨に鞭打って嬉々として励んで居ります。

人とひととの和を心掛けて

北沢二丁目協和会会長 松原佳子

私共の町会は昭和四十五年から女性役員で活動して、私で三代目、ほんの繋ぎのつもりが今年で七年目を迎えてしまいました。人様から「良いところに住まいですね」とか、若者の街とか云われる全国的に有名な下北沢の北口、商店街隣接の住宅地です。

昨今では住宅が建て変わると共同住宅や店舗になり、住宅の範囲がだんだんと狭まれて来ました。防災、環境、生活面では道路せまく、広場公園もなく、放置自転車に悩まされ、若者達の落としていくゴミ等、どうにも解決を見られない事ばかりです。そんな町ですが女世帯の気安さと町会の班長、防災部員、子供会世話人など、協力して下さる方々が年毎に変わる事で、多くの方と顔見知りになり町会に

ます。

住む人にも訪れる方達にも安心した街をと、町会、商店会、青少年地区委員会、行政、警察と一緒に駅周辺を毎月パトロールしながら、風俗ビラや広告物を撤去しています。

これからも年一度の親睦バス旅行や、子供会と防災部との野外カレーパーティ、地域のお祭りのお手伝いなどをする事で、人とひととの繋がりを大切に活動して行きたいと思っております。

新たなまちづくりをめざして

赤堤二丁目町会長 今村貞吉

赤堤は、京王・井の頭・小田急の各線に囲まれ、街の中を世田谷線が走りながらも比較的静かな住宅街でしたが、ここ数年で世田谷線松原駅前五階建てが二棟、八階のビルが三棟もできると、大きく様変わりしてきています。

これらを機に新たな街づくりが進むと思われませんが、今後、より住みよい街をつくるうえで、今までの活動に学ぶ点が多いと考え、赤堤の事例をいくつか書き連ねてみました。

六所神社の境内で毎朝六時半から行うラジオ体操は、

前会長時代から四十年以上も続く、単独町会としては都内唯一の行事です。

また、七月二十五日〜八月五日には同所でこどもラジオ体操会が開催され、延べ五千名もの参加者が集まっています。

秋の六所神社の祭礼には、子供神輿・太鼓・山車を繰り出してこどもまつりを行ないます。赤堤のこどもがだれでも参加できるように、こども用の半纏を用意し、幼稚園・小学校に呼びかけられています。当日は四、五百名の参加があつて、良い思い出になつて居るようです。

秋には、街の音楽愛好家や有志の奉仕による運営で、六所の森のコンサートが開かれます。六所神社の参道や境内に日没から篝火が焚かれ、素晴らしい雰囲気音楽会を多くの聴衆が埋め尽くします。

防災活動については、赤堤小学校に町会・自治会・諸団体による地域防災連絡会(仮称)を設け、有事の際の活動方法を検討しております。



プロパン炊飯器

この度、井上眞治氏が相談役にご就任され、私が理事長に選任されました。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

井上相談役は、昭和四十六年青年部長に、昭和五十二年当会第二代理事長にご就任されて以来、納涼盆踊り大会や資源リサイクル運動を創始され、また、当会創立三十周年と四十年記念事業・町会館建設・創立五十年記念事業など、大きなご功績を残されました。今後は、相談役としてご指導を頂きます。

当奥沢交和会は、

玉川地域

新任ご挨拶

奥沢交和会理事長 原田正幸

赤堤小学校には都内でも少ない事例として、赤堤生涯学習センターが設置されています。

赤堤まつりは九回目を数

え、松原駅前商店街通りにフリーマーケットとチャリティが開催されて売上金の一部が募金になります。

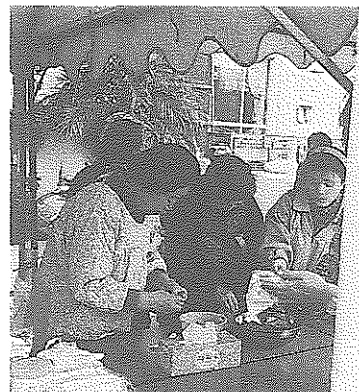
以上、赤堤が住み良い街

になるよう、町民と町会・自治会が一体となって活動している事業をご紹介します。

化の必要を痛感し、約百万円で薪炊きかまど・プロパン炊飯器・灯油レンジ各三台を購入するなど、町内の防災体制を整備しました。

敬老事業としては、七十五歳以上のお年寄り約千名に慶祝品をお贈りしております。当会でも、災害時に救助を求められる高齢者が多く、その協力員を整えるなど高齢者対策部会で取り組んでおります。

奥沢は戦災も殆ど受けず、人の出入りが少ない落ち着いた町です。私事で恐縮ですが、亡父は戦時中は在郷軍人会・警防団、戦後は町会に関わっております。



ガス水道電気なし炊き出し防災訓練
平成八年三月二十五日

炊き出し訓練

で、自然に私も町会の中で育って参りました。世田谷区議会在任中は町会助成金の増額をお願いしてきましたが、今後は町会連合会一年生として皆様のご厚誼を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成九年六月

アメリカ社会を支えるNPO

玉川田園調布会理事 林 泰義

〔編集委員長註〕

前五号の記事の中に「欧

米の町会活動はどうなっているかを知りたい」という質問がありました。

NPOの事例

私は、その方面について専門に調べた訳ではありませんが、せんが、仕事で渡米したころ、あちらの役員の家で食事と呼ばれたり、泊まつたりした経験が何回もあります。そのような機会に、先方の奥さんが「血液銀行のキャンペーンがある」とか「美術館へ日本の益子焼の説明をしに行く」というような、いわゆるボランティア活動の話をするのを屢、耳にしました。

彼女達にとつて、このようなボランティア活動に参加することはステイタス・シンボルなのだということを感じました。それでは誰がそのような仕事の割り当てをしているのかを聞いてみると、「それはコミュニティ」だといいます。更にそのコミュニティの成立について尋ねると、ほとんどの場合、それは教会のようでした。

つまりあちらの健全な家庭では、土曜には日用品の買い入れをしたり、庭や建物の手入れをして、日曜は家族揃って朝早く教会へ行

き、ミサに出席し、十時過ぎに上品で、綺麗でしかも手軽なレストランでランチを取り、それから休日を楽しむというパターンが定着しています。その教会の長老は周囲の家々の事情をよく知っていて、前述のようなボランティア活動の割り当てを行い、割り当てられた人は、それを誇りをもって引き受けているのだと知りました。

チャリティ募金、学校の催しへの協力なども、この場できまるようです。何か特別な企画の場合は、以下の説明にでてくるNPO活動に申込み、そのNPOが認められれば、行政側はそのNPOに対して税制面での支援を行うという構図になります。

筆者の林理事は東大工学部建築学科博士課程を終了し、自ら計画技術研究所を主宰し、都市計画部門の、各種国際会議にも出席し、内外に著名な方です。

阪神・淡路大震災以来、ボランティア活動への関心が急速に高まった。同時にアメリカで盛んなボランティア活動の芯としての役割を果たす Non Profit Organization: NPOへの関心が広がってきた。以下にこれを簡単に紹介したい。

一、楽しいコミュニティ ガーデン

五月初め、爽やかに晴れ上がった空の下で七、八人の人々が、キラキラと輝くように色鮮やかなチューリップの花壇の手入れをしている。ニューヨークは、マンハッタンの休日の朝です。

大都会の空き地に眼を付けた住民が友人や近所の人々に「花壇・菜園づくり」を呼び掛けることから「コミュニティ・ガーデン」づくりがスタートする。NPOとしての登録をし組織作りを済ませると、土地の確保が最初の山場のようである

寄付や財団助成で資金が出来れば、いよいよ「ガーデンづくり」である。専門家を招いての草花の栽培実習、推肥の作り方から小生の生態観察まで、実践的学習や変化に富むプログラムも企画する。

二、凄烈な荒廃地域の再生

マンハッタンの北東、ブロンクス南部はアメリカでも最も凄烈な荒廃地として全国に知られている。麻薬・窃盗・強盗殺人などあらゆる犯罪が日常化している超危険地域である。安全に歩ける道や、遊べるオープンスペースはごく限られる。

子ども達は全てスクールバスで通学する。要塞のように厚い壁に小さな窓の中学校を拠点に活動しているのが、弱冠二十三

歳のポール・リブケン青年が始めた「ブロンクス・フロンティア・デイベロプメント・コーポレーション」(BFDC)である。このNPOは学校の近くにある放棄された空き地を活用し、中学生たちの活動の場づくりをしている。生徒や生徒の親たちとの協働で瓦礫を取り去り、廃材で遊具、ベンチ、塀そして門などを作り、遊び場や菜園にしたのである。

三、さまざまなNPO

アメリカには百万を超える大小さまざまなNPOがある

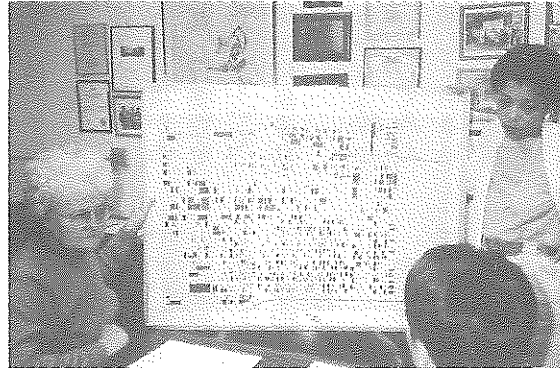


フランク・G・マー牧師の提唱でNPOで作上げたオーランドの低所得者用住宅

活動している。ニューヨークのメトロポリタン美術館、大学、病院、各種財団をはじめ福祉、文化、まちづくり、歴史環境保存、自然保護等あらゆる領域に、実に多様なNPOがある。

NPOには約七百万人の人々が働いており、アメリカの国内総生産の六パーセントを占めている。幅広いボランティア活動を支えているのが、このNPOなのである。

NPOは州法により認められる「民間非営利法人」であり、この法人格を得た後に、内国歳入庁の基準に適合していれば税制上の優遇措置が適用される。



シカゴベゼル地区には教会の提唱で高齢者デイケアセンターの設定や、高齢者用住宅の修復、管理、運用を行なっているNPOがあり、家賃を一定水準に据え置く運動も行なっている。図は街区内の対象家屋を示す。

温室村から

マンション村へ

玉堤町会長 齋藤重男

素晴らしい環境に恵まれている玉堤、東は多摩川台公園の緑の丘、南には多摩

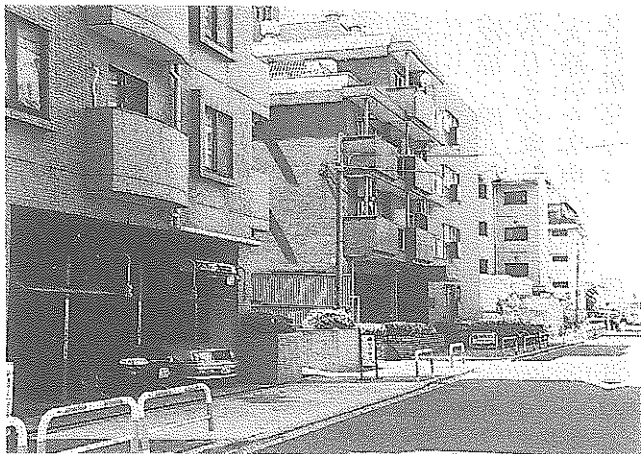
川の清流、遠く丹沢の山間には富士山も見え、西には東京で一ヶ所しかない等々

力溪谷、町の中には小学校と大学もあります。等々力の協和会から独立

(昭和五十三年十月)玉堤町会として発足、まもなく二十年になろうとしています。

昔は花を栽培する温室村として栄え、皇室にカーネーション等献上していたと聞いております。昨年まで温室も二ヶ所程残っていましたが、今はマンションが建ち温室はなくなりました。昔の名残として土手を走るバス停に玉川温室村と言う地名

が出て来ます。この長年つかわれてきた路線のバス停の名前も東急乗馬学校前という新しい名称に変更になりましたが、玉堤の先輩達



温室が消えマンションが増えた玉堤町

の足跡として温室村の名前は変えないで欲しいと思います。

二十年前に比べると空地も整備され、つきつきとマンションが建ち、温室村からマンション村へと変貌しました。きれいな街とは言えませんが、それだけに今後の発展に大きな期待もてる街だと思えます。

他の地域では人口が減少しているようですが、玉堤では人口が増加しております。これからは交通事故や犯罪のない、そして災害に

強い街づくりをしていくのが使命だと自覚しております。

街づくりの重要課題として玉堤地区の循環バスがあります。高齢化社会を向かえる二十一世紀に向けて、交通機関の整備を区の方に強く要望しています。バス路線実現によって解決される問題点が数多くありますので、早期実現を心待ちにしているとこです。

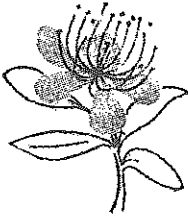
玉川地区には立派な町会長さんがたくさんおり、日頃御指導いただいております。

すが、町総連の皆さん、玉堤は世田谷区の片隅にある小さな町会ですが近隣町会や行政と協調性をもち、世田谷の町として恥ずかしくないような街づくりをと役員一同頑張っております。今後の御指導よろしくお願ひ申し上げます。

ザ 野毛

野毛町会会長 木村新平

我が町「野毛」は、世田谷区の南西の端に位置し、西に多摩川の清流が流れ、東の高台には大塚古墳があり、六所神社と、善養寺を中心にして街が形成されていて、緑豊かな自然環境に恵まれた街であります。



そんなところから「緑と水と古墳の町」としてみんなで仲良く、楽しく明るい町づくりを基本に町会運営を行なっています。世帯数は約二、〇〇〇、そのうち会員は八〇〇世帯です。最近では大きなマンションが増加し町会加入率も低下しております。そのような環境の中で昨年町会長をお引き受けいたしました。

次は町会の諸行事について申し述べたいと思います。春の交通安全運動が交通部により実施されます。安全講習会、野毛公園前にテントを張り交通安全を呼びかけております。五月にはゴミリデーがあり商店会、敬老会の人達が一緒になって町内の清掃を行います。八月に子供会と盆踊り大会が六所神社境内で行われます。特に子供会は青年部の活躍でたくさんの子供達が集まります。十月には婦人部の協力で敬老会が行なわれます。七十五歳以上のお年寄りを招待して記念品と食事等のおもてなしをします。年末には防災部、防火部、防犯部による歳末警戒が行なわれます。三月には文化部、婦人部の共催で一般会員を対象に一泊二日のバス旅行を実施し、会員相互の親睦をはかっています。町会長二年目の今年は青少年健全育成の一環として子供祭り、そしてお年寄りをはげます意味で秋に敬老会を行い、特にこの二つの行事を野毛町会の二大イベントとして実行する事にし、早速今年五月十一日六所神社境内において子供祭りが行なわれました。好天に恵まれ三〇〇人を超す子供達が参加致しました。この子供祭りはポスター作りからゲーム等の内容まですべてを青年部に一任致しました。

また商店会の人達も焼きそば、綿あめ等協力をいただきました。これから予定される秋の敬老会では婦人部の活躍が期待されます。以上我が町「野毛」を紹介致しました。私はこの様な町を誇りに思い、この環境の中で生活出来る事をうれしく思っています。私達が住んでいるすばらしい野毛に感謝しながら、仲良く、一層良い町にする為に努力して行きたいと思っております。

二子玉川の花みずき

玉川町会会長 松本三郎

我が町玉川町会では毎年花みずき実行委員会が花みずきフェスティバルを行い、両商店街振組が協賛売り出しと抽選券を発行します。四月二十九日緑の日には兵庫島公園にて一大イベントを行い花みずきの苗木をチャリティでみなさんに差上げ、また会場では消防署の起震車で地震の体験をさせたり、フリーマーケット一〇〇店以上が出店します。世田谷吹奏楽団の皆さんの演奏、特に毎年来ていただいている警視庁婦人警官による鼓笛隊及びバトンガ-

な町を誇りに思い、この環境の中で生活出来る事をうれしく思っています。私達が住んでいるすばらしい野毛に感謝しながら、仲良く、一層良い町にする為に努力して行きたいと思っております。また花小鉢の即売会、抽選会、飲物、食物など大変賑やかです。特に今回は十五周年記念としてヒゲの殿下寛仁親王のご臨席を賜わり、「花を通して国際交流に貢献されていることは大変有意義であり二十年、三十年と続けて欲しい」とのお言葉に一同、意を強く致しました。これからも花のように人々に好かれる街にしたいと思えます。

ねたきり予防を

目指した町づくり

桜新町町会長 大場 シゲ

私共の町会は旧玉電通りを挟んで南に桜新町二丁目、北に桜新町二丁目を有し約千余世帯住んでおり、町会運営もおかげ様で好調に運んでおります。一昨年の阪

神大震災を契機になお一層明るく安心して住める町づくりを心がけておりますが、全国一様に困惑の放置自転車には閉口しています。当地区放置自転車対策協議会

でも駐輪場を二階建にと働かかけてはいるもの、実現は程遠く撤去と放置のくり返し。万一災害が起きたらと考えますと道徳の低下を痛感します。災害に強い町づくりと構想を練っても、一人ぐらし、在宅療養者、乳幼児等弱者の把握、救援対策が果たしてどれだけ出来るか、また一人ひとりの防災意識の高揚と取り組みに役員一同苦慮してあります。防災訓練参

加への呼びかけも、一ばん活動に適した年齢層は日中不在、年輩者の参加が目立ち人集めも一苦労。時代背景もあり無関心派の多いのも事実。何とか打策策をと考え実現に努力中です。玉川地区で深沢出張所管内が、「ねたきり予防を指した町づくり事業のモデル地区」になったのは昨年七月。年々少子化、高齢者増の昨今です。玉川保健所の呼びかけで、「ねたきり

0を目指す町の会」が発足。管内十一町会が参加し、ねたきりにならないよう如何に健康ですごす事が出来るかについて駒沢地区会館、深沢区民センターで、講演会や講習会を重ねて地元会員に伝授しています。年々区の行事の回数も内容もともに増えていますので、町会もせわしい思いがします。が、頑張ります。

礎 地 域

小合衆国、わが祖師谷団地

祖師谷団地自治会会長 藤田 博志

私が自治会に加入して以来二十四年になる。現在、公社住宅である祖師谷団地自治会会長として一〇二〇世帯の団地の中にあつて微力ながら頑張っています。私自身は、一年毎の改選期を経て平成九年度五月十八

日の自治会総会に於いて、住民各位のご推薦により再選となりました。平成五年五月就任以来四期続行となります。然しながら役職と仕事が重なり毎月が大変多忙の連続ですが、選ばれた以上は地域のために頑張っ

ていかねばなりません。我が団地自治会の組織は会長以下三十名の役員と棟委員の四十名で構成されています。毎月定例役員会と棟委員会を同日開催、棟委員会は夜八〜九時まで、役員会は引き続き十時まで行

なわれていきます。会合は、明るく、時には活発な討議があり全体に協動的に運営されております。紙面の都合上あまり詳しく記述出来ませんが、今まで私達が取り組んで交渉の上実現した主要なものを紹介致します。よう。

- (一) 団地大通りに安全歩道の設置。区議会を通じて、実現。
 - (二) 団地内二ヶ所に大時計を設置（公社に交渉）
 - (三) 団地広場に安全ベンチと子供用滑り台備付
 - (四) 団地構内駐車ラインの設定。（公社に交渉）
 - (五) 全棟室の「消火器」の一斉交換（公社、業者）
 - (六) 団地内「放送設備」の取付。（公社に交渉）
- また世田谷区役所、警察、消防との協力による行事として
- (一) リサイクル処理、カンダム処理、毎月一回
 - (二) 防火、防災訓練 団地内で春秋二回 区主催年二回
 - (三) 団地構内パトロール 防火、防災、防犯 週一回

(四)ゴミゼロデー 六月上旬
(今回六月八日実施)・
十二月中旬 年二回

出来るかは極めて重要な事であり、一人ひとりが認識を深める必要があります。

(五)団地夏まつり 毎年八月下旬二日(今年は八月二十三日(土)・二十四日(日))

今後の問題点としては、少子化、老人福祉対策がありますが、公的助成機関は勿論、地域社会として、私達が見過ごす事が出来ない面が出て来るのではないかと、また会長としては役員、棟委員と密接に連絡して永くこの良き伝統を守り続けたいと思っております。

(六)交通安全週間 諸行事

面が出て来るのではないかと、また会長としては役員、棟委員と密接に連絡して永くこの良き伝統を守り続けたいと思っております。

春秋二回

(七)敬老福祉対策 九月十五日敬老の日「七十五歳以上」に贈り物など

面が出て来るのではないかと、また会長としては役員、棟委員と密接に連絡して永くこの良き伝統を守り続けたいと思っております。

子どもたちに、 ふるさとと言われるように

希望ヶ丘団地自治会長 額賀一哲

希望ヶ丘団地自治会の現在の状況を報告いたします。

祭りを続行させなければとの思いで実施しております。

子どもたちに、「ふるさとと言われるように」との目標をたててきました。例えば祭りですが、近隣の町会等では取りやめているところが多くなっていますが、当自治会としては、何をかいて子どもたちのために

祭りを続行させなければとの思いで実施しております。学校が夏休みになり、親が里帰りする前の金、土曜日の二日間、祭りの実行委員や自治会役員が会社を休んで祭りの準備をしています。また同好会や仲の良いグループの人々は、子どもたちに喜ばれる手作りの店

を開いています。

当日は近隣の子どもたちも多数遊びにきます。団地内の区立保育園では、園長先生をはじめ先生方が楽しいイベントや手作りの遊びを教えて下さり、幼児には大変な人気を得ております。

また小、中学校の卒業生がボランティア活動の一つとして売店で頑張っていたり、PTAの校外委員がパトロールするなど、賑やかな楽しい祭りが多数の地域の人々によりできることは嬉しく思い、感謝しております。

ゴミゼロデーには、希望ヶ丘小学校児童やPTA、自治会員等一五〇名余が通学路や緑道の清掃を行い、子

どもと大人のコミュニケーションが図られました。今後も続行して行きたいと思っております。

アルミ缶回収で有名になつている希望ヶ丘中学校に対し、自治会はアルミ缶集めの協力をしており、これによって学校と地域との交流ができております。また、学校との交流の一つに防災活動があります。自治会の避難所は希望ヶ丘中学校に指定されており、学

校長と防災マニュアルを作成してあります。当自治会では、防災マップを作成しつつありますが、少しでもよい環境づくりのため努力して参りたいと思っております。

昭和の初めには山野、横根、石井戸、本村、吉沢といった五集落の昔ながらの景観も、北部の山野方面から開発の波による浸蝕が進んだ。また大蔵には村内に二十余ヶ所にもおよぶ鎌田村の飛び地が散在していた。この飛地整理が実施されたのは昭和二十九年のことであり、それは当地及びその周辺の宅地化にもなう行政上の問題からであった。

その結果、新たな町域が画定され、旧大蔵から砧、大蔵、鎌田の三つの町が成

立区誕生するまでは、東京府北多摩郡砧村大蔵であった。昭和十八年に東京都世田谷区となった。

人口の変遷は次の通りである。天保元年九十戸。明治初年百三十八戸で人口六百四十二名。大正九年には百七十四世帯で、人口は千四百四十二名。昭和十五年には五百九十六世帯で人口は三千二百九十三名であった。

この頃の二十年間で三倍の人口となったのは、昭和二年の小田急線の開通によるものである。

昭和の初めには山野、横根、石井戸、本村、吉沢といった五集落の昔ながらの景観も、北部の山野方面から開発の波による浸蝕が進んだ。また大蔵には村内に二十余ヶ所にもおよぶ鎌田村の飛び地が散在していた。この飛地整理が実施されたのは昭和二十九年のことであり、それは当地及びその周辺の宅地化にもなう行政上の問題からであった。

その結果、新たな町域が画定され、旧大蔵から砧、大蔵、鎌田の三つの町が成

立区誕生するまでは、東京府北多摩郡砧村大蔵であった。昭和十八年に東京都世田谷区となった。

人口の変遷は次の通りである。天保元年九十戸。明治初年百三十八戸で人口六百四十二名。大正九年には百七十四世帯で、人口は千四百四十二名。昭和十五年には五百九十六世帯で人口は三千二百九十三名であった。

この頃の二十年間で三倍の人口となったのは、昭和二年の小田急線の開通によるものである。

昭和の初めには山野、横根、石井戸、本村、吉沢といった五集落の昔ながらの景観も、北部の山野方面から開発の波による浸蝕が進んだ。また大蔵には村内に二十余ヶ所にもおよぶ鎌田村の飛び地が散在していた。この飛地整理が実施されたのは昭和二十九年のことであり、それは当地及びその周辺の宅地化にもなう行政上の問題からであった。

その結果、新たな町域が画定され、旧大蔵から砧、大蔵、鎌田の三つの町が成

立区誕生するまでは、東京府北多摩郡砧村大蔵であった。昭和十八年に東京都世田谷区となった。

人口の変遷は次の通りである。天保元年九十戸。明治初年百三十八戸で人口六百四十二名。大正九年には百七十四世帯で、人口は千四百四十二名。昭和十五年には五百九十六世帯で人口は三千二百九十三名であった。

この頃の二十年間で三倍の人口となったのは、昭和二年の小田急線の開通によるものである。

昭和の初めには山野、横根、石井戸、本村、吉沢といった五集落の昔ながらの景観も、北部の山野方面から開発の波による浸蝕が進んだ。また大蔵には村内に二十余ヶ所にもおよぶ鎌田村の飛び地が散在していた。この飛地整理が実施されたのは昭和二十九年のことであり、それは当地及びその周辺の宅地化にもなう行政上の問題からであった。

その結果、新たな町域が画定され、旧大蔵から砧、大蔵、鎌田の三つの町が成

立区誕生するまでは、東京府北多摩郡砧村大蔵であった。昭和十八年に東京都世田谷区となった。

人口の変遷は次の通りである。天保元年九十戸。明治初年百三十八戸で人口六百四十二名。大正九年には百七十四世帯で、人口は千四百四十二名。昭和十五年には五百九十六世帯で人口は三千二百九十三名であった。

この頃の二十年間で三倍の人口となったのは、昭和二年の小田急線の開通によるものである。

昭和の初めには山野、横根、石井戸、本村、吉沢といった五集落の昔ながらの景観も、北部の山野方面から開発の波による浸蝕が進んだ。また大蔵には村内に二十余ヶ所にもおよぶ鎌田村の飛び地が散在していた。この飛地整理が実施されたのは昭和二十九年のことであり、それは当地及びその周辺の宅地化にもなう行政上の問題からであった。

その結果、新たな町域が画定され、旧大蔵から砧、大蔵、鎌田の三つの町が成

大蔵の沿革

大蔵本村睦会会長 安藤芳彦

大蔵は明治八年に横根村を編入して成立した大蔵村

と言われた地域である。明治二十二年の市町村制施行

後は砧村大字大蔵となり、明治二十六年に神奈川県から東京府に編入された。昭和七年に東京市世田谷

烏山地域

回覧板について考える

上祖師谷自治会会長 荒井 錫太郎

立したのである。これ以後もこの地域の北部から始まった宅地化、都市化は、その中央部に及びはじめた。昭和三十年から新町名番地となり、さらに若干の修正が加えられて昭和三十七年より現在の住居表示が行なわれたのである。なお、旧大蔵の範囲は今の住居表示で表わせば、千歳台一丁目と二丁目、砧三丁目の北縁

部と西縁部、砧四丁目から六丁目、砧公園の西北部、大蔵一、三、五丁目、大蔵二、四、六丁目の大部分、鎌田一丁目の西端部、鎌田二、三丁目の大部分、玉川三、四丁目西部である。宅地化などの開発の状況は、次の通りである。昭和三十六年大蔵住宅団地完成。昭和三十八年、山野小学校開校。昭和三十九

年、世田谷通り改修。昭和四十一年、仙川河川改修完了。環状八号線の玉川通り完成。同じく、世田谷通り完成。昭和四十三年東名高速道路開通。昭和四十四年東急玉川線砧線廃止、二子玉川に高島屋ショッピングセンター開店。昭和五十二年新玉川線開通等である。

これを広報版や区のお知らせなどに掲載して、少し数を減らせないものか。二、時期の問題。少なくとも一ヶ月前にはもってきてもらえないだろうか。中には十日ぐらい前にもってきて「よろしく」なんてものもあるが、回覧はある程度まとめているのでそのためにわざわざたくさんの人手をさいて行なうことは大変である。

重要なものを一番上に置くのでその相談もする。それを四百の班に配布する。申し込みのあるものは、四つの申込先を作り、期限を過ぎたら副会長が回収する。四、町会活動は基本的にはボランティアでやっていただいているが、それでも昼食代やお菓子代ぐらいいは出さざるをえない。関わる人数が多いのでこの経費も結構ばかにならない。

三、手数がかかる。回覧担当は専任が三名いる。回りの助力を得て、いくつもの回覧を仕分けして綴じる。

回覧のことについて、各町会自治会の工夫なりを教えていただければ幸いです。

ふるたす 故きを温ねて新しきを知る

—— 児ヶ谷会の歴史と今後の運営 ——

児ヶ谷会相談役 加治屋 俣郎

上祖師谷自治会は三千近くの会員を擁する規模の大きな自治会である。防犯、防火などを中心とした伝統的な行事を活動の基礎にしている。毎年夏休みに入るとすぐ行なう交通安全の集いなどには子ども達が三百人も集まって結構盛況である。すいか割りや金魚す

くいなどのイベントと組み合わせるなど工夫しているせいであろう。小さな規模の町会にも役員の手がみつからないなどの悩みがあるが、会が大きくなればなるほどたくさんさんの悩みを抱えてくるものである。当自治会の悩みごとの一

つは回覧のことである。今回この問題をとりあげて各町会自治会の皆様のアドバースなりご意見を受けることができれば幸いです。一、まず回覧の数が多くいことである。区役所はもとより消防、警察、清掃などを中心にしてほしい。

児ヶ谷会とは一体どういう会だろうと皆様思われることでしょう。児ヶ谷という地名も聞かないし〇〇町会、△△自治会という呼称もつけていませんが、世田

谷区町会総連合会の烏山地域に属する自治会の一員です。戦時中、昭和十八年から十九年にかけて住宅営団によって造成された、サラリーマン集団住宅団地の走



児ヶ谷地区の変貌
北側、高井戸との境の京王線は高架となる

戦争末期の昭和

十九年はじめ頃、

平屋木造二軒つづ

き三十五戸、計七

十世帯の団地がで

きました。自治

会という堅苦しい

ものはありません

でした。しかし当

時の生活環境は水

道ガスが敷設され

ておらず、八世帯

に一つ井戸を共用

していました。ま

た、戦中戦後十数

年間食糧はもとより薪炭そ

の他の生活物資は配給に依

存していましたが、集団

相互扶助の必然性から自治

会としての活動が言わず語

らずの間に自然発生的に形

成され、名称も児ヶ谷会と

いうようになり、区役所に

登録される町会総連合会の

一員に加えてもらったわけ

であります。

自治会の活動は住宅営団

廃止による都営移管、その

後の住宅払い下げ要請とい

う大問題を経験する他、雨

水、排水、下肥の処理、雑

草除去、清掃等にはじまり、

道路舗装、上下水道、都市

ガス敷設までの数十年の間、

自治会内の相互協力は枚挙

にいとまのない程でした。

本当に眼に見えないよう

なことですが、物資のまだ

不自由な時に会員力を合わ

せて防火用の井戸を掘りま

したが、幸いにしてこの五

十数年一度もこの井戸を使

わなければならぬ事態に

は接していません。

自治会活動をふりかえつ

てみますと、人間が生活す

るために必要なものを、そ

れも戦中戦後の物の不足の

時に、お互い公平に入手す

るために活動してきたこと

が印象に強く残ります。発

足以来五十数年経た平成の

現在、物は豊富で、物の入

手について会を形成して分

配の公平を期する必要性も

なくなり、新たに転入して

くる方は、今更自治会の必

要なしと思われる方もおら

れるかもしれないが、現

在我々自治会がかかえてい

る問題は、物を入手するこ

とはなく、反対に物を手

離すこと、すなわち大量消

費によって生ずるゴミの処

理です。煙草、空缶のポイ

捨てや家庭での生活ゴミの

処理が問題です。これには

自治会単位で集積場所、収

集日時、ゴミ区分を厳守し、

監視し、後始末の清掃をす

ることは、自治会の活動に

まつより方法はないのです。

地域清掃のほかにも、阪

神大地震の教訓により防災

訓練に関する自治会活動は、

時代の変遷により内容を変

え進歩しています。五十年

以上の歴史を有する児ヶ谷

会は、自治会成り立ちの原

点である相互扶助の精神を

連綿として継続維持して、

会の構成員の変化があつて

も、常に昔を思い出して新

しいことに対処して行く

「温故知新」の精神を守って

行きたいと思っております。

前号に寄せられた

質問について

編集委員長 渡辺三郎

第五号の編集後記に、各

単位町会から寄せられた記

事のなかの、共通の疑問や、

迷惑していること、困って

いることについては、聞き

放しにしないで、町総連と

しての回答をしていきたい

と書きました。

常任理事会でお許しを得

たので、編集委員長の立場

で、分かる範囲でのお答え

を記します。

「欧米の町会活動はどう

しているのだろう」という

深沢三友会秋山会長の質問

については、私自身が何人

かの人に直接質問して得た

回答を取りまとめて記しま

したが、第二段階として何

か地域で特別なプロジェクト

を解決してゆかなければ

ならないときには、そのプ

ロジェクト専門チームが編

成され、それがNPOとい

りの自治会です。
古老の証言によると児ヶ
谷というのは烏山地域の字
名で、児ヶ谷用水という小
川が流れ、北は高井戸と、
東は八幡山との境界になっ
ていました。今は田圃もな
く小川には蓋がかけられて
歩道になっています。この
団地は当初から児ヶ谷住宅
と言われていましたが、そ
の後、半世紀を経た現在、
この土地に町名はもとより
道路名、駅名、バス停名や
学校、公園等の公共施設に
も、全く「児ヶ谷」の名を
とどめていません。

う形で公式に認められてゆく過程を玉川田園調布会の林理事に寄稿して貰いました。(二六ページ参照)

固定資産を所有する町会の悩みについて駒沢親和会の浦野会長が書いておられますが、本来社団法人の資格を持っていたということ、資本金借入れによる改築、それによる不動産価値の維持など積極的な運営が可能だった筈と思います。地縁団体の認可は法人資格が取得できない任意団体の場合、固定資産の継承が大変不利になるために導入された制度ですから、この種の移行は本来有り得ないこと、従って前例がないのは当然で、なぜこのような指導がなされたか理解に苦しみます。しかし準法人として役員も増員されて再出発された以上は心機一転して活躍のほどを祈ります。

会長さんばかりでなく、「商業的な福祉関係の注文書入りのチラシ」に頭を痛めるという弦巻町会の老練の佐々木会長の記事の共通性には私も驚きました。普通通このようなチラシが団体から送られる前に、「これこれのチラシを町会で回覧してくれ」という電話があると思うのですが、私のところでは、そのような場合、「この地域ではダイレクトメールが氾濫しているのだからそれは町会員の役に立たない。また効果が無いことが明らかであるから、折角だがお断りする」といって一切拘らないようにしています。ご参考までに申し上げます。

拙い回答ですが、更にご意見がある場合は、どなたでも「町総連だより」宛として、それぞれの地区出張所経由で投書して下さい。よろしくお願い致します。町総連だよりが単に一方的な意見の発表の場ではなく、実質的な討論の場として役に立つことを心から期待しています。

町総連「こゝろ」又

- 平成九年一月からつぎの会議等が開かれました。
- ◇一月二十三日 新年親睦交流会 三軒茶屋キャロットビル 来賓 熊本都会議長
- ◇一月二十九日 東京都町会連合会 新年懇親会 文京区茗溪会館 三田会長、安田副会長出席
- ◇二月二十日 常任理事会
- 一、平成九年度予算(案)
- 二、役員改選の件
- 三、平成九年度総会及び永年勤続者表彰の件
- 四、平成八年度決算
- 五、町総連情報誌の件
- ◇二月二十四日 東京都町会連合会常任理事会
- 一、首都機能移転問題について東京都からの説明
- 二、町会に対する区の対応に関する調査の件
- 三、総会の日程の件
- ◇三月十三日 交通安全幹事会

- 一、平成九年春の世田谷交通安全運動実施要領(案)
- 二、平成九年度世田谷区「交通安全日、二輪車自動車安全日、駐車対策強化日」実施要領(案) 事務局出席
- ◇四月三日 会計監査
- ◇四月十七日 町総連だより編集会議 情報誌第六号のテーマ等の件
- ◇四月二十二日 常任理事会及び理事会
- 一、平成八年度事業報告・決算報告及び監査報告
- 二、平成九年度事業方針及び予算(案)
- 三、理事会の役割分担の件
- 四、町総連情報誌の件
- 五、総会及び永年勤続者表彰の件
- 六、役員改選の件
- 七、平成九年度活動費の配分及び会費の徴集の件
- ◇四月二十四日 東京都町会連合会常任理事会
- 一、平成八年度事業報告・収支決算報告及び監査報告

- 二、平成九年度事業計画(案)及び予算(案) 渡辺常任理事出席
- ◇六月四日 町総連だより編集会議 情報誌第六号の校正
- ◇六月五日 東京都町会連合会 白石副会長出席
- 定期総会及び懇親会
- 一、平成八年度事業報告・収支決算報告及び監査報告
- 二、平成九年度事業計画(案)及び予算(案)
- ◇六月十二日 常任理事会
- 一、総会等の役割分担及びスケジュールの件
- 二、役員改選の件
- 三、永年勤続者表彰の件
- 四、町総連情報誌の件
- 五、(財)世田谷区ふれあい公社評議員の推薦の件
- 六、地域の支え合い活動の件
- 七、F M世田谷番組審議会委員の推薦の件
- 八、世田谷保健所運営協議会委員の推薦の件
- 九、世田谷まちづくり中央会議の件

会長改選一覧(その1) 世田谷地域町会連合会

町会・自治会名	新会長名	旧会長名
池尻東親会	斎藤 忠雄	錦織 由王
太子堂5丁目町会	里吉 皐月	田中 英
三軒茶屋町会	山田 幸	山本 正次
宮坂1・2丁目町会	鈴木 賢治	服部 毅

会長改選一覧(その2) 北沢地域町会連合会

町会・自治会名	新会長名	旧会長名
代沢5丁目町会	金丸金之助	阿川祺太郎
羽根木町会	永沢 利夫	宮田 玲人
東北沢自治会	三室 喜久	日留川正三
松原1町名町会	佐々木和代	杉山 久治
赤堤5丁目町会	袖山 正	佐藤 兼吉

会長改選一覧(その3) 玉川地域町会連合会

町会・自治会名	新会長名	旧会長名
奥沢交和会	原田 正幸	井上 眞治
尾山台クラブ	平野喜久江	平井 朝子
用賀南町会	古村 之宏	鈴木 鉦治

会長改選一覧(その4) 砧地域町会・自治会連合会

町会・自治会名	新会長名	旧会長名
船橋葎根会	花形 和夫	黒田寅之助
千歳船橋郵政自治会	鶴原 浩司	福住 耕治
喜多見東部町会	永井 秀雄	猪俣 富義
喜多見北部町会	柳 治一	森 重雄
石井戸会	鹿島 新吉	石井 勇
大蔵東部町会	安藤 久夫	平尾 湛月
清水建設 砧アパート自治会	長谷川祐二	今野 隆充

会長改選一覧(その5) 烏山地域町会自治会連合会

町会・自治会名	新会長名	旧会長名
芦花公園前住宅自治会	安在 道夫	作井 哲也
烏山第1団地自治会	福本 新吾	R・Dベイカー
烏山北住宅自治会連合会	下田たづ子	原田 治夫
芦花住宅管理組合	片山 登	岡本 一彦
給田南住宅自治会	田口イシ子	鈴木 和夫
給田北住宅自治会	一法師 隆	伊藤 光男

編集後記



すでに会員各位がご承知のとおり、本会は昨年十二月、東京都町会総連合会に入会し、他区と比較しての町会としての活動力に足りないものがないか、行政との関係において正しく機能しているかを検討することが可能な姿になった。そこ

お悔やみ申し上げます
羽根木町会会長
宮田 玲人 殿
平成九年二月九日
三軒茶屋町会会長
山本 正次 殿
平成九年三月五日

で本号では東京都町会総連合会会長である相川文京区町会連合会会長に、先輩会長としてのご助言をお願いしたところ、快くお引受けいただき巻頭を飾ることができた。深くお礼申上げる。前号で二十ページ建てを目標として毎号二十七出張所あたり各一編の原稿執筆をお願いしたが、一支所一編という地域もあって、全部で十六編しか集まらなかったことは誠に残念である。しかし一月、七月発行というスケジュール上、不十分なまま進めることとなった。

また写真が少なくて紙面のアクセントが少ないことも問題である。写真は各記事に最低1枚は付けることを原則としていただきたい。事務局(生活文化部管理課調整係)への窓口は各出張所長にお願いしてあるので、依頼されて原稿を書くばかりでなく、自発的な投稿を切に願ひし、町会総連合会の情報誌を、真に全員の機関紙にして行きたい。